

2009年 今月の逸品 2

童謡かるた

(野口雨情 自作自筆／岡本歸一 画)

このカルタは、大正から昭和にかけて活躍した詩人・野口雨情の生誕地である茨城県で、昨年11月に開催された国民文化祭にあわせて復刻されたものです。

復刻にあたっては、佐々木靖章茨城大学名誉教授と野口雨情資料館が中心となり、当館所蔵の「童謡かるた」(昭和7年版)も参考の一つにされました。読札は雨情自作・自筆による文言、取札は「コドモノクニ」の挿絵で知られ、雨情とも親交の深かった童画画家、岡本歸一が描いています。



啄木かるた (復刻版)

(石川啄木／中原淳一 画)

このカルタは、雑誌『少女の友』の昭和14年1月号付録の復刻版です。『少女の友』は、明治41年から昭和30年まで実業之日本社が発行していた少女向けの雑誌で、川端康成や吉屋信子などの小説が掲載されていました。

この当時は画家の中原淳一が雑誌の表紙と挿絵を担当していて、お正月号の付録にふさわしいものとしてカルタが採用され、石川啄木の歌に少女の絵をつけて百人一首のように遊べるように工夫されています。当館にはこの復刻版と共に、昭和14年版も所蔵しています。



エコかるた

(一般公募／なかさこかずひこ！ 画)

このカルタは、朝日新聞の創刊130周年企画として「地球のためにできること、エコのためにできること」をテーマに全国から募集したところ42,785句の応募があり、選考委員による審査の結果46句が決定し、昨年12月7日の朝日新聞に掲載されました。

選ばれたカルタには、毎日の暮らしのなかにあるエコのヒントや、かけがいのない地球への想いが込められています。



子どものための食育かるた

(監修：村田ナホ)

十勝郷土料理研究会会長の村田ナホさんが、子どもたちの心身の健やかな成長を願って作ったカルタです。

全ての読み札に食育に関する簡単な説明がついているので、親子で楽しく学べる上、楽しいイラストを見ながら、ひらがなを覚える学習教材としても使うことができます。

村田さんは北海道帯広市在住で、高等学校の家庭科教師として勤務し、定年退職後、「こどもクッキング教室」を主宰し、食育の普及・促進に努めています。



上方落語かるた

(作家：小佐田定雄 イラスト：中西らつ子)

上方落語で使われている独特のフレーズを、四十八席の噺から一言ずつ選出したカルタです。

絵札には演目の代表的なシーンを、読み札には台詞と出典先の演目が書かれています。

遊び方としては、通常のカルタのように読み札を読んで絵札を取るほかに、読札の台詞を読み上げ絵札を取った後で落語のタイトルを言い当てるといった少し高度な応用も可能です。またこのカルタには付録として、読み手CDがついていてNHK連続テレビ小説『ちりとてちん』でお馴染みの桂吉弥さんが読み上げを担当しています。



9ソウくんげんきかるた

(子どもの本・九条の会編 ポプラ社)

子どもの本・九条の会は、井上ひさし氏、大江健三郎氏らが呼びかけ人を務める九条の会のアピールに賛同した子どもの本の関係者が昨年4月に設立した会です。

このかるたは、会員から募集したことばを中心に、選考委員の内田麟太郎氏、那須正幹氏らの担当者が読み札を決定。絵札は45人の絵本作家が一枚ずつ分担し、さまざまな個性がにぎやかに集まった、今までにないかるたとなっています。

